

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/09/02 ～ 2022/10/31)

1. 勉学の状況

・授業開始前

9月7日にオリエンテーションが、8日にフィールドトリップが行われた。オリエンテーションでは、学生証の受け取りをし、説明会とキャンパスツアーが行われた。説明会では、生活上の注意点や大学近くのレストランの紹介、軽いタイ語のレッスンなどが行われ、タイの伝統的な舞踏の披露があった。昼食タイムがあったことと、キャンパスツアーが出身地域ごとに行われたため、多くの留学生にとって友達を作る最初の機会となった。渡航前に MUIC が留学生だけの Line グループを作っていたため、私の場合、そこで見つけた日本人と事前に話をしておき、入国日から顔を合わせていた。フィールドトリップは、Siam Amazing Park というタイの遊園地へ行き、留学生同士の親交を深めるために設けられたイベントだった。大学側の学生思いの姿勢が強く感じられた。自由参加であったがほとんどの留学生が参加しており、楽しかった。



・履修について

Exchange student は最低3つ最高4つの授業を履修することができる。今年は、8月29日までに自分で取りたい授業を決め、申請書に入力し、メールで提出する形で履修が行われた。留学生は現地生より早く履修を行うことができた。どのような授業があるのかについては、大学から送られてきたリンク内で検索することができる。しかし、授業の名前と時間は知ることができたが、授業内容についての記載はないため、私の場合、以前マヒドンに留学していた先輩の報告書を読んだり、千葉大に来ていたマヒドンの学生に聞いたりして授業内容をなんとなく把握し、3つの授業を選択して提出した。Add/drop period という、授業を変更することのできる期間が、授業が始まってから大体1週間与えられるため、最初に提出した授業が思っていたのと違っていても大丈夫だった。結局私は授業を2つ変更し、最終的に、” Introduction to Thai Language and Culture”、” Introduction to Travel and Service”、” Sustainable Development in Travel and Service Business” の3つを履修している。

・授業について

” Introduction to Thai Language and Culture” では、授業の名前の通りタイ語とタイ文化について学んでいる。110分を週2回の授業だ。この授業では、タイ文字を読んだり書くことはせず、生活していく上で必要な基礎的なタイ語（例えば料理の注文や道を聞くなど）を話す・聞くということを学んでいる。今までに小テストと Midterm テストの2つを受けた。タイ語の方は簡単な聞き取りとスピーキングだが、タイ文化の方は選択問題だけでなく、一問 A4 ほどの writing 問題が複数含まれている。この授業は留学生しか履修することができないため、英語圏出身の学生がほとんどを占めており、writing で差をつけられたくない思いで必死に長文を暗記する形で乗り切っている。

” Introduction to Travel and Service” は、観光業の基礎について学ぶもので、170分を週1回、2週ごとに扱うテーマと先生が変わる形式だ。先生が変わるごとに、テストやレポート課題が課されている。グループでのビデオプレゼンとミニレポートを終え、テストは少し難しく感じたが、1行ほどで答える writing 形式だったため、そこまできつくはなかった。

” Sustainable Development in Travel and Service Business” は、名前の通り、タイの観光業に関する Sustainability を考えるといった内容で、110分を週2回行っている。先生は、堅苦しくなくとてもフレンドリーな方だが、先生の話すタイ語訛りの英語が難しい。タイ国内の特定の地域に限定した観光事業を扱ったりするので、タイ人の学生と比べて資料も限られ、理解が遅くなるが、課題はグループで行われるものが多く、不安なことは少ない。Midterm テストを終えたが、A4 半枚ほどで記述する writing 問題が4問出題され、時間が足りず思ったように解けなかった。成績は悪くなかったが、私は writing を苦手としており、今回それを痛感したため Final に向けてもっと勉強していきたい。

授業は火水木の週3、ほとんど午前中で終わるのでうまく履修を組めたと思う。しかし、現在はこの3つの授業に追加して、千葉大のオンデマンド授業2つとメジャープロジェクトを履修しているため、勉学面は忙しい。

2. 生活の状況

・大学生活

MUIC の建物はものすごく綺麗で居心地が良い。大学が広大なので、他の建物についてはまだあまり知らないが、キャンパス内にはたくさんのカフェとレストランがあり、一日大学で過ごしても飽きない。MUIC の建物内だけでも、カフェとセブンイレブン、安くご飯を食べることのできる店が10軒くらいあり、大学に行く一つの楽しみでもある。今の trimester に MUIC で留学を始めた学生は大体150人くらいおり、欧米圏とヨーロッパ圏の学生が多く感じる。多くの学生は12月までの留学であるためか、授業を休んで旅行に行っている学生もおり、驚いた。



・コロナ

タイでは新型コロナに関して様々な制限が解除されているが、大学ではマスクの着用が推奨されており、授業中は皆マスクをつけている。濃厚接触者という概念はなく、隔離期間も定められていない。新型コロナを発症した学生は、5日間の自宅療養が課されるが、基本的に自己判断といった感じだ。コロナによる授業の欠席には医師の診断書が必要なのだが、私の友人が罹った時、診断書をもらうために、具合の悪い中、保険適用されるバンコクの病院まで往復2時間ほどかけて行って大変な思いをしていたので、自分も健康には気をつけようと思う。

・部屋

今住んでいるアパートメントは、渡航前に第5希望くらいにしていた所であったため、入居は正直とても落ち込んだ。入居した日は、アパートメントの古さやエアコンの効きの悪さに絶望、家の契約を最短の3ヶ月にし、早く引っ越そうと思っていた。しかし、エアコンの効きは翌日には良くなり、アパートメントのオフィスの方々がとても優しいこと、そこら中に監視カメラがあり24時間警備員が入口にいること、女性フロア男性フロアに分けられていること、アパートメント内は清掃がとても行き届いていること、留学生が多く住んでいること、などなど、たくさん良い点があることに気がついたため、今は契約を延長している。住居で不便に感じることはほとんどない。家の近くには野良犬がたくさんいて、狂犬病のワクチンは打って来たが、撫でたい気持ちを抑えて眺めている。



・食事

アパートメントでは料理が禁止されており、キッチンがついていない。冷蔵庫はあるが、他は何もなかったため、湯沸かしポットは購入した。近くに多くの屋台やセブンがあり、デリバリーサービスも充実していて、物価が安いので、毎日デリバリーと外食だけでも一日 500 円くらいには収まる。同じアパートメントに住む多くの友人は電子レンジを購入しているが、私はまだ必要性を感じていない。友人がシーフードを食べたところ、食中毒で入院したので、生ものはこれからも避けていくつもりだ。

・天気

渡航してから最近まで、タイは雨季だった。すごい音の雷と雨がいきなり降ってくる。タイ全土の問題であると思うが、アパートメントの立ち並ぶ道はとても水はけが悪く、大雨が降るとすぐ足首まで水があがる。この場合、アパートメント自体は少し高いところに建っているため問題ないが、外出先からアパートメントに戻るためには必ず足首まで水に浸からなければならない。裸足で歩いているタイ人もいるが、そうはいかないのでサンダルが必須、足の怪我には気をつけている。常に湿度が高いため、洗濯物を外に干していても全然乾かず、外気が独特な匂いがするため、乾燥機を愛用している。もう 11 月になるが、毎日 30 度越えて常夏を実感している。暑さには慣れた。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/11/01 ～2023/01/07)

1. 勉学の状況

・授業について

MUIC では建物にクリスマスツリーが飾られ、私の最初のタームの授業が終わった。履修したすべての授業が面白くて満足している。11月から12月の間にMUICでファイナルテスト週間があっただけでなく、千葉大で履修している授業も最終課題を迎えたこともあったため、振り返ってみるとたくさん勉強した期間だったと思う。私はMUICで3つの授業を履修したが、ファイナルテストと言えるテストは2つの授業でしか行われなかった。マヒドンでは、留学生は最大4つの授業を履修することができるが、3つの授業の課題をこなし、テストに向けて準備することで私は手一杯だったため、4つ取るのは難しいと個人的には思った。

まず、タイ語とタイの文化に関する授業（"Introduction to Thai Language and Culture"）では、タイ語のスピーキングテストとタイ語とタイ文化のライティングテストが行われた。毎回たくさん勉強してほぼ満点を取っていたので、最後のテストは満点を取ろうという気持ちで勉強して挑んだ。最後のテストだから特別難しい、といったことはなく、今までのテストと同じような形式のテストだった。スピーキングテストではテスト終了時に満点を伝えられて嬉しかった。ライティングのテストの結果は授業が終わってしまい伝えられていないのでわからないが、授業全体の成績評価が良かったので非常に満足した結果となった。日常的に便利なタイ語と、タイの歴史、生活、宗教など基礎的なタイ知識を学ぶことができ、生活の助けになることが多かったので履修して本当に良かったと思う。

サステナブルと観光に関する授業（"Sustainable Development in Travel and Service Business"）のファイナルテストは、普段授業を受けている校舎・教室とは違う場所で行われ、試験監督も複数いる教室で行われた。今回も論述式のテストだったが、オープンブックの形式のテストだったので、中間テストより気が楽だった。そもそも千葉大では授業で最終テストを受けたことがなかったので新鮮な気持ちだった。中間テストが思ったより難しかったので、緊張してテストに臨んだが、予想していたより手こずらなかった。全体の成績は自分の予想より良くて嬉しかった。この授業は、観光とサステナビリティの関わりについてタイで行われている事例をもとに学んでいく授業だった。そもそもこの授業は渡航前から絶対に履修したいと希望していた授業だったので、自分にとって最も印象に残っている。タイ国内での事例を多く扱ったが、先生が留学生に十分な考慮をくださり、また、日本語でネットで調べ直したりするとタイの観光について日本語の記事が意外と多く出てくるため、授業の内容に理解が追いつかないといったことは起こらなかった。グループレポート課題が複数課されたり、グループプレゼンテーションを行ったりと、課題が多い印象を受けたが、学ぶことはとても多く、フレンドリーな先生のおかげもあり、終始楽しく授業を受けることができた。

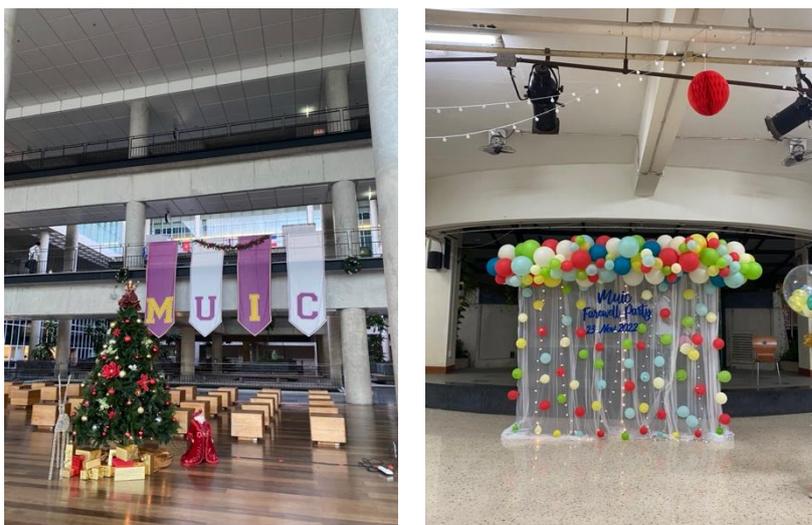
基礎的な観光を学ぶ授業（“Introduction to Travel and Service”）ではファイナルテストは行われなかった。オムニバス形式の授業で2週間ごとにテーマと先生が変わる授業だったため、2週間ごとに課題が出され、そのほとんどがグループで行うものだった。全体の成績は、この授業も自分が予想していたより好成績で嬉しかった。この授業では、ホテル・食・イベントなど、複数の視点から観光学の基礎を学ぶものだった。1つのテーマにつき2授業しかないため、深くは学べなかったが、観光の概要を様々な観点から学べたため、興味のあるテーマを増やすことができた。この授業ではファイナルテストがない代わりに、バンコクにあるシェラトンホテルに実際に訪問し、テーブルマナーやホテル経営について学んだ。普段できない体験ができ、良い経験となったため、履修して良かったなと感じている。



（左：テーブルマナー講義での食事・右：ホテル見学の様子）

・大学について

12月に入って、ファイナルテスト週間が始まる前に、MUICでは留学生を対象に farewell party が開催された。バイキング形式で夜ご飯が用意され、くじ引き大会のようなものも行われた。ドレスコードが指定され、フォトスポットのようなものも設置されており、大きな会場となっていたが、全体として留学生の参加人数は少なく、あまり盛り上がりは感じなかった。参加人数が少なかったためか、私はくじ引き大会でわたあめを作る機械が当たった。すこし残念な感じの雰囲気ではあったが、このように大学が留学生のために無料でパーティーを開催するというような点から、大学側の留学生に対する気遣いをとても感じ、MUICに留学して良かったなと思った。



(左：12月のMUSICの様子・右：farewell party時のフォトスポット)

2. 生活の状況

・日常について

タイの生活にすっかり慣れ、充実した生活を送っている。一年に一度行われるロイクラトン祭りに参加したり、美容サロンに行ってみたりと、勉学面以外のことにも積極的に取り組んでいる。サラヤはやはりバンコクに行くのは遠く少し不便に感じることもあるが、その代わり、バンコクよりも物価が安いことがわかり、また、危ないと感じたこともなく、人もとても優しいため、生活はともしやすく感じる。12月でタームが終わったので、帰国してしまう留学生が多く寂しいが、多くの異国の友達が増えて、次のタームでも新しい友達を作るのが楽しみだ。ファイナルテスト週間が終わり、冬休みを迎えている今、私は日本で家族と過ごすために帰国したが、他の留学生の友達は飛行機でタイの北部に旅行へ行ったり、家族がタイに来て一緒にバンコクで過ごしたりと、いろいろな形で年末年始を過ごしている。

12月に体調を崩した。症状は嘔吐と高熱だったが、1日で治まった。タイは食の衛生面の管理があまり十分ではないので、気をつけて生活していたが、体調を悪くした前日は外食を一切しておらず、原因となったものもわからないので少し怖い。これからもっともっと気をつけていかなければいけないと感じている。この機会に、タイでは日本よりも薬を調達しやすいことがわかった。セブンイレブンに行けば、解熱剤、咳止めや胃腸薬など様々な種類の薬や冷えピタなどが売っており、また、ネットで調べるとそれらについて日本人の方が解説しているサイトも複数あるため、意外と薬の入手には困らない、簡単だということがわかった。私の住んでいる Bundit House がある「ソイタンシン」という通りには、セブンイレブンと薬局が複数あるため、体調が悪くなった時もあまり困らず生活できると思う。

・住居について

乾季に入ってから外から小さな蟻がよく部屋に入ってくるようになった。食べ物に寄ってくるタイプの蟻ではないことはわかるが、いつも窓の近くにいる。部屋にたくさん隙間があることが

一因だと考える。蟻対策の虫除けグッズを設置しても効かないので困っている。

・天気

タイは11月に乾季に入ったというニュースがあったが、依然として11月も道路に水が溢れていた。なかなか道路の水が引かず、道を渡ることができなかったので、食糧難になりかけた。私の住んでいる通り「ソイタンシン」には、雨が降るとすぐに通り全体で水が溢れることがわかった。道には野良犬や落ちているゴミが多く、換水時に溢れている水は絶対汚いことが想像できるのでなるべく触れたくないのだが、車が通れなくなり、歩いて通らないと家に戻れないことが度々あり、乾季に入っても雨で嫌な思いをすることは多かった。12月に入って、雨はほとんど降らなくなり、朝晩が涼しく、とても過ごしやすい気候となっている。



(左：サラヤのロイクラトン祭の様子・右：11月半ばのソイタンシンの様子)